

## 守りたい高江の自然

下里 久 41歳

アキノ隊員こと宮城秋乃氏(日本鱗翅学会自然保護委員)による新川川沢登り会が8月9日にあった。新川川の上流に向けて登りながら、生き物を見て、高江の自然を楽しんだ。頭上には木々が生い茂り、足元に流れる川の水は冷たくて心地よかった。普段、コンクリートの道を歩くのと違い、岩場を歩くのに慎重になりながらも、秘境を歩くようにワクワクした。

途中、アカマタが頭上の木から落ちてくるというハプニングがあり、茂みに隠れようとするアカマタの尻尾をみんなで触った。普段できない体験もした。

リュウキュウリumontンボの交尾、リュウキュウウラボシシジミなどのほか外来種の魚もいた。今回見た生き物たちは、きつと参加者の心に焼き付いただろう。特にゴールの滝つぼで泳いだ経験は、大人も子どもも一生の宝物になった。

そんな高江は、ヘリパッド建設が進み、その危機は辺野古と同様に深刻だ。来

年もその先も、こうした自然と触れ合うために、今できることを考え、動くことが求められている。

(宜野湾市、自営業)